

臣領納之、遣鎮西之東土、悉無糧、而弃大將軍、多以歸參畢、汝所領與西海已隔數箇月、行程也、全乘馬參上、猶可謂不思議、剩勸盃酒獻土產於彼國、不取人之賄者、爭有如此之貯乎、奇怪也者、行平陳申云、在國之程、失兵糧之計、經日數之間、爲扶郎從等、令沽却彼輩之甲冑以下物、具訖、而渡豐後國之時者、傍輩皆恃參州御船、行平敢不顧私存忠之故、爲任先登於意、以纔所殘置之自分鎧、相博小舟、雖不著甲冑、掉船最前著岸、入敵先陣、討取美氣三郎、凡每度竭功之條、大將軍見知分明也、今依召欲參之處、無進物事、達所存此弓於九國名譽之由、兼以風聞、其主不慮之外、沽却之行平喜之、折節著小袖二領、仍一領脫之替之、于時參州祇候人等爲餞別來會見此事、頻感之可被召尋歟、次獻盃酒事者留置下總國之郎從、矢作二郎、鈴置平五等、用意旅糧來向于途中、以之令充經營糧、全不貪他物云云、二品具令聞之給、浮感淚喜其志給、

〔吾妻鏡六〕文治二年八月十五日己丑、二品御參詣鶴岡宮、而老僧一人、徘徊鳥居邊、恠之以景季、令問名字給之處、佐藤兵衛尉憲清法師也、今號西行云云、仍奉幣以後、心靜遂謁見、可談和歌事之由、被仰遣、西行令申承之由、○中略○西行上人退出、頻雖抑留、敢不拘之、二品以銀作猫被充贈物、上人乍拜領之、於門外與放遊嬰兒云云、

〔澀柿〕明惠上人傳

義時條○北朝臣逝去して後、天下の事掌に握られける最初に、丹波國に大庄一所、梅尾に寄進せられたりければ、上人被仰けるは、かゝる寺に所領だにも候へば、住する僧ども、いかに懶惰懈怠にふるまふとも、所領あれば、僧食事闕まじ、衣裳補ぬべしなど思ひて、無道心なる者つゞき居て、彌不當にのみ成行候べし、寺のゆたかなるに付て、児ども取おき、酒もりし、兵具をひとつさげ、不可思儀のふるまひ不可勝計、さもと有山寺の、佛のいましめにたがひて、淺ましく成行ば、是より事おこれり、只僧は貧にして、人の恭敬を、衣食とすれば、自放逸なる事なし、信々として誠しく行道す